



## PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ、文部科学記者会  
科学記者会 御中

令和2年6月26日  
岡山大学

## 日本国内における非結核性抗酸菌感染症の死亡率動向を解明 ～高齢女性における死亡率が上昇傾向～

### ◆発表のポイント

- ・過去20年間(1997-2016年)の死亡統計データより、日本国内における非結核性抗酸菌感染症の死亡率動向を算出しました。
- ・60歳以上の高齢者では、女性の粗死亡率が年々増加傾向であることを明らかにしました。
- ・特に、研究期間の最後の3年間(2014-2016年)においては、女性は結核感染症よりも非結核性抗酸菌感染症の死亡数が上回ることを解明しました。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科総合内科学の萩谷英大准教授の研究グループは、これまで未解明であった日本国内における非結核性抗酸菌感染症の死亡率動向を、死亡統計データに基づき明らかにしました。本研究は、同講座の大塚文男教授および同大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 狩野光伸教授の指導のもと、岡山市立市民病院の原田洸医師（研究当時は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科総合内科学所属）、同大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科の船橋智子大学院生、同大学大学院医歯薬学総合研究科の小山敏広助教との共同研究で行われました。

結核菌感染症は、世界三大感染症としてよく知られており、疫学調査や診断技術／治療薬の開発対象として注目されてきました。一方で、非結核性抗酸菌感染症はいまだ不可解な部分が多く、現代における日本人の死亡原因にどの程度関与するかが分かっていませんでした。本研究グループは、過去20年間(1997-2016年)における日本国内の非結核性抗酸菌感染症による死亡者数を調査し、統計学的に解析しました。その結果、男性に比べて女性の死亡率が際立って増加傾向であることを明らかにしました。さらに、近年においては、女性における非結核性抗酸菌感染症の死亡者数は、結核感染症による死亡者数を上回ることが分かりました。

本研究成果は、6月18日に米国の医学誌「*Clinical Infectious Diseases*」(Impact Factor 9.117)に掲載されました。

統計学や感染症、性差に注目した内分泌学的視点から考察を行ったことで臨床的に意義深い論文となり、感染症のトップジャーナルへの掲載に繋がったと思います。各分野のスペシャリストの先生方にご指導を頂けたことを大変ありがたく思います。



原田医師

今回は多くの研究者とのコラボレーションが重要だったと思います。また、データサイエンスという新たな武器で臨床的な課題に関する知見を世界に発信できたことをうれしく思います。



小山助教



PRESS RELEASE

普段は総合内科・感染症を専門として患者さんの診療を行う傍ら、感染症に関係する様々な研究を行っております。2020年、新型コロナウイルス感染症の世界的アウトブレイクは感染症の脅威と感染対策の重要性を私たちに知らしめました。これからも感染症の領域で世界に役立つ情報を発信し続けたいと思います。



萩谷准教授

■発表内容

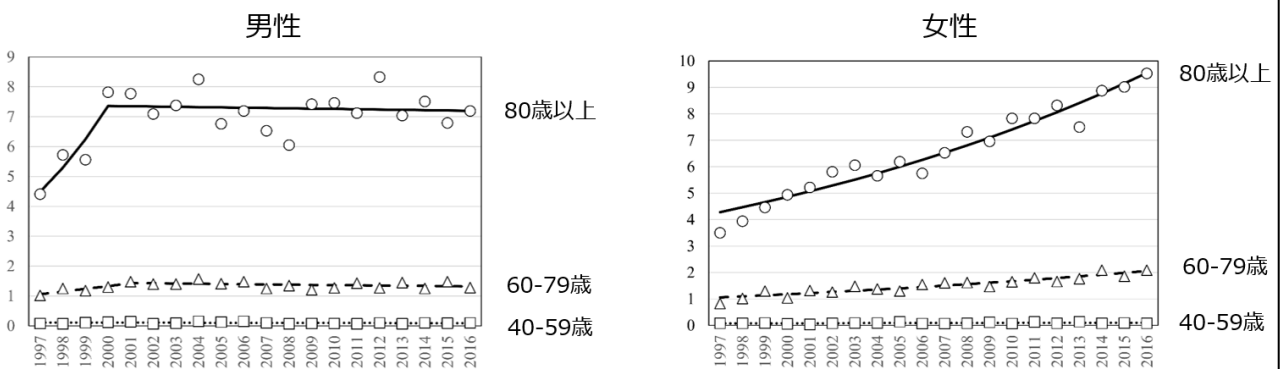
<現状>

世界三大感染症として知られる結核菌に比べ、非結核性抗酸菌は表舞台に姿を見せない“隠れた”微生物です。ヒトに感染することは以前より知られていましたが、人の生命にどの程度影響するか、また現代の公衆衛生における重要度はよくわかっていませんでした。

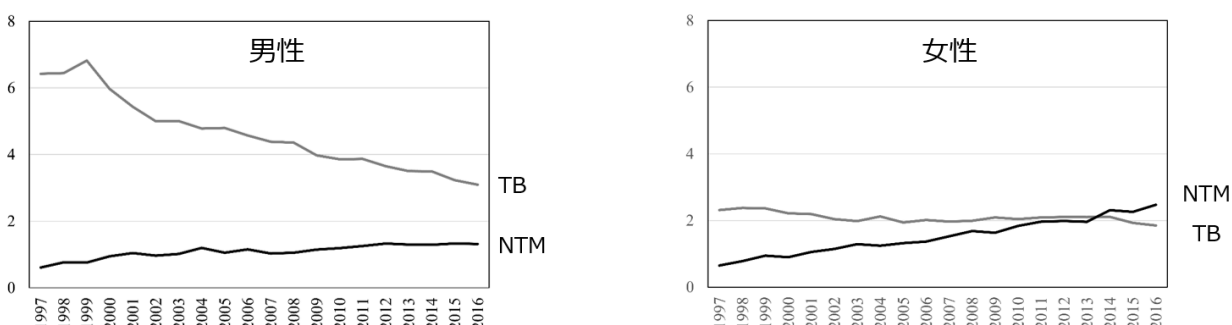
<研究成果の内容>

私たちは、過去20年間(1997-2016年)における日本国内の非結核性抗酸菌感染症による死亡者数を調査しました。その結果、10万人当たりの粗死亡率が20年間で約3倍増加していることが分かりました。死亡数は高齢者集団で高いことは想像に難くありませんが、特筆すべきは、死亡率の年間上昇率が女性において有意に増加傾向にあったことです(下図上段)。加えて、直近3年間において、女性における非結核性抗酸菌感染症の死亡者数は、結核感染症による死亡者数を上回ることが分かりました(下図下段)。

非結核性抗酸菌感染症による10万人当たりの年間死亡数



結核(TB)と非結核性抗酸菌感染症(NTM)による10万人当たりの年間死亡数の比較





## PRESS RELEASE

### <社会的な意義>

本研究により非結核性抗酸菌感染症が高齢の日本人女性の死亡原因として増加傾向であることが示されました。高齢化社会は世界のあらゆる国家が直面する問題であり、高齢者特有の感染症対策を推進するための基礎データとなる本結果は、諸外国にとっても有益な情報になると確信しています。また、死亡率に明確な男女差があることは非結核性抗酸菌感染症の制御における性ホルモンの関与が推定され、今後の研究シーズにつながると期待しています。

### ■論文情報

論文名 : Trends in the nontuberculous mycobacterial disease mortality rate in Japan: A nationwide observational study, 1997-2016

掲載紙 : *Clinical Infectious Diseases*

著者 : Ko Harada, Hideharu Hagiya, Tomoko Funahashi, Toshihiro Koyama, Mitsunobu R. Kano, Fumio Otsuka

DOI : 10.1093/cid/ciaa810

### <お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

総合内科学 准教授 萩谷 英大

(電話番号) 086-235-7342

(FAX) 086-235-7345



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。